

平成30～令和2年度 鹿児島県総合教育センター提携研究 研究報告（3年間のまとめ）

鹿児島県立松陽高等学校

I 研究主題

思考力・判断力・表現力の効果的な育成を目指した授業改善Ⅱ
ーより深い思考や理解を促す授業づくりー

II 研究主題設定の理由

1 平成29年度までの研究主題から

平成27～29年度にかけての研究主題は「思考力・判断力・表現力の効果的な育成を目指した授業改善ーアクティブ・ラーニングの実践を通してー」であった。副題に「アクティブ・ラーニング」を冠し、主体的・協働的な活動や課題解決学習を各教科で意識的に取り入れた。平成29年度のアンケートによると、生徒の8割以上が、協働的な学習には前向きかつ、その意義に自覚的であるとの結果が出た。しかし、その一方で、学んだことの定着や知識を基にした思考力・判断力・表現力の育成につながったか、という点については生徒と教師双方に疑問が残った。今回の研究は、その反省も生かし、副題を「より深い思考や理解を促す授業づくり」とすることで、「授業での問い掛けはどうあるべきか、どのような資質・能力を育成すべきか、深い学びとはどのようなことか」について研究を進めるに至った。

2 学習指導要領の趣旨から

学習指導要領の趣旨を実践する取組を推進するには、「生きる力」の育成、とりわけ「確かな学力」の要素である基礎的・基本的な知識の習得とその活用を図ることや思考力・判断力・表現力を伸長することが課題であり、教師主導の授業から脱却し、生徒が自ら学ぶ授業を構想する必要がある。今回の研究は、新学習指導要領への移行を前に、教師が生徒に能動的に学ぶ姿勢を喚起し、学習内容（コンテンツ）重視の授業から資質・能力（コンピテンシー）重視の授業への移行を実現する布石としたい。

3 大学入学共通テストに向けて

今年度から実施される「大学入学共通テスト」では、「知識・技能」だけでなく、大学入学段階で求められる「思考力、判断力、表現力等」を一層重視するという考え方がベースにある。「大学入学共通テスト試行調査（プレテスト）」でも、高校生活の中での学習場面を想定した問題や、複数の情報を組み合わせさせて思考・判断させる問題などが出題された。現高校3年生が大学入学共通テスト受験元年に当たっており、この3年間の研究が、生徒の進路実現にとって不可欠なものと考えている。

III 研究の構想

1 研究期間

平成30年度～令和2年度（3年間）

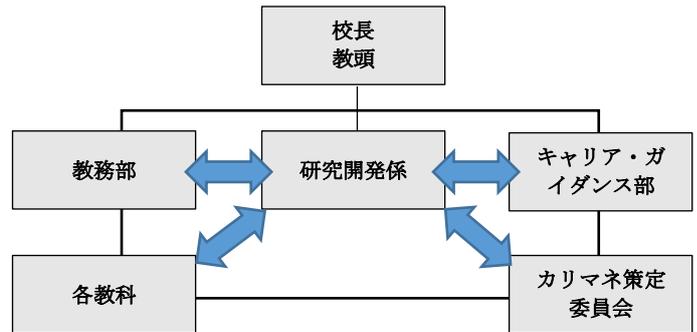
2 3年間の研究計画

年度	主な内容
平成30年度	・卒業までに生徒に身に付けさせたい「思考力、判断力、表現力等」の明確化 ・思考を促す発問や表現活動や対話のある授業づくり、評価問題の工夫 ・研究内容に基づいた授業の公開、実践事例や研究内容の発表
令和元年度	・生徒の思考の足跡をたどり、学習理解を深める手立てとしてのポートフォリオの活用 ・生徒の主体性を育み、学習のつまづきや個々の教育的ニーズに合った適切な支援の検討 ・研究内容に基づいた授業の公開、実践事例や研究内容の発表
令和2年度	・より深い理解を促すために、関連した学習内容のある単元や教科との連携 ・創造性豊かで実践力のある社会に有為な人材の育成（学校教育目標）へのアプローチ ・研究内容に基づいた授業の公開、実践事例や研究内容の発表・研究成果の検証、まとめ

3 研究の体制

校務分掌上では、教務部の研究開発係が総合教育センターと連携しながら研究を行う。係は、各教科1名（国語・地歴公民・数学・理科・英語）の5名からなる。研究の体制は、資料1のように、研究開発係が教務部、キャリア・ガイダンス部、各教科、今年度から新しく各種委員会に設置されたカリマネ策定委員会と連携しながら研究を進めている。

資料1 研究の体制



IV 研究の内容

1 本校の現状と実態についての把握・分析

(1) 生徒の実態や進路に対する意識について

ア 本校は普通科（文科コース・体育コース・書道コース・英語コース・理科コース）・音楽科・美術科に分かれており、それぞれの学科・コースに応じた部活動が盛んである。そのため、部活動の参加率は85%を超える。北薩や始良方面からの遠距離通学生も多く、生徒は概して自宅で過ごす時間が短いのが特徴である。

イ 進路希望調査によると、生徒の進路希望は四年制大学・短期大学・専門学校・公務員などである。その中でも、四年制大学への進路希望者が毎年全体の6割程度を占めており、生徒の半数以上は大学進学を目指している。

(2) 本校生徒の現状把握および課題

ア 職員アンケートの分析（平成30年9月実施）

各教科会にて、「思考力、判断力、表現力等」を身に付ける上で、教科指導上、課題になっていることについて話し合った結果、共通点として挙げられたのは、「学習意欲の低さをどのように高めていけばよいか」、「基本的な知識・技能の定着度をどう高めるか」、「知識を関連付けて考えることへの苦手感をどのように克服するか」であった。

イ 定期考査の分析（平成30年10月実施）

各教科において、定期考査の分析を行った。資料2は、地理歴史（1年生）の観点別の出題に対する正答率である。全体的に「知識・理解」、「資料活用の技能」は高い反面、「思考・判断・表現」の正答率が低い。上位40人の「知識・理解」は高い状況にあるが、「思考・判断・表現」の正答率は伸び悩んでおり、得点は「知識・理解」に依存している傾向がある。このように、本校の生徒は全体的に「思考・判断・表現」の出題に対して弱い傾向にあることが分かり、「知識・理解」を深めるだけでなく、それを基にいかにか「思考・判断・表現」の問題に対応させていくかが課題としてあげられた。

資料2 地理歴史の観点別の出題に対する正答率

観点	全体正答率	上位40人	下位40人
知識・理解	61.8%	76.3%	48.9%
思考・判断・表現	36.7%	44.3%	30.5%
資料活用の技能	57.1%	66.3%	54.4%

ウ 総合学力テスト（高校生のための学びの基礎診断）の分析（令和元年7月実施）

資料3は、2学年の成績上位層（GTZがB2以上）の生徒を対象とした観点別の出題に対する得点率と全国差異（本校の得点率－全国の得点率）である。国語は「知識・技能」と「思考・判断・表現」の全国差異が同程度でありバランスが取れている。数学は、「知識・技能」の全国差異が高いが、「思考・判断・表現」は低い。英語は、「思考・判断・表現」と比べると「知識・技能」の全国差異が低い。教科ごとの強みを生かしながら弱い分野の問題に対応させていく必要がある。

資料3 成績上位層の観点別の出題に対する得点率と全国差異

	知識・技能		思考・判断・表現	
	得点率 〔%〕	全国差異 〔%〕	得点率 〔%〕	全国差異 〔%〕
国語	45.9	5.4	42.8	7.1
数学	57.3	10.6	7.3	-4.2
英語	30.0	2.1	47.2	8.3

※ 全国差異＝本校の得点率－全国の得点率

※ GTZとは、学習到達ゾーンを段階的に示したものであり、B2は国公立大学挑戦レベルである。

2 学校全体として取り組んだこと

(1) 観点別評価の導入

平成30年度から内規を変更し、これまでの評価方法を「得点」に偏った評価ではなく、観点別学習状況に基づく評価へと転換した。資料4のように、単元や題材ごとに観点別評価（A、B、C）を行い、これを基に各学期末において5段階評価により評定を付けている。観点別評価にすることで、生徒の資質・能力をバランスよく評価できるようになった。また、教師の「思考力、判断力、表現力等」を育成する授業改善の意識も高まった。

資料4 観点別評価の段階及び表示の方法

A：「十分満足できる」状況と判断できるもの
B：「おおむね満足できる」状況と判断できるもの
C：「努力を要する」状況と判断できるもの

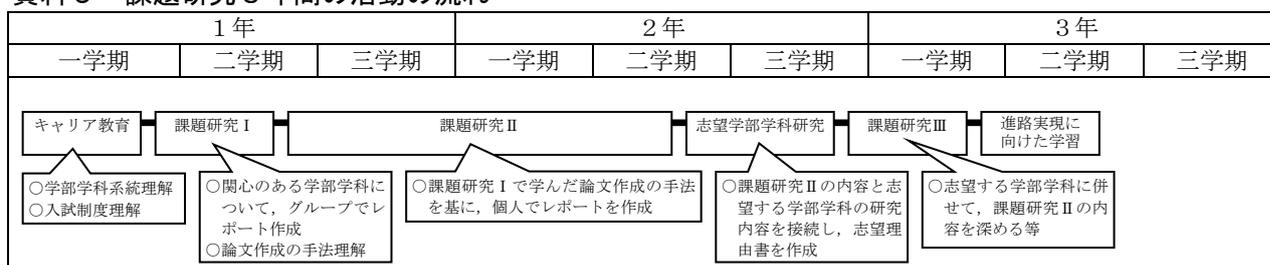
(2) Classi（通信教育業者のクラウドサービス）の導入

入試改革による多面的・総合的の評価に対応するための「ポートフォリオ作成」と生徒の活動の積み重ね（蓄積）を将来のキャリアに生かすべく、平成30年度より採用・運用している。生徒に学習や活動の振り返りを行う重要性を説明し、生徒が学校行事や進路講演会、定期考査や学期末の振り返り等を入力している。個々の活動の成果を集約することにより、生徒が成長の実感や進路選択につなげられると考えられる。今年度からは、「入力強化週間」を設定するなど入力率を上げるための取組を実施している。

(3) 課題研究の導入

平成29年度より「総合的な学習（探究）の時間」の中で、グループや個人での課題研究を実施している。資料5は、3年間の活動の流れ（イメージ）である。生徒自身が「問い」を設定し、仮説を立て、それを検証する活動を行っている。生徒は課題研究を通して、答えが一つではない問題に出合い、教科横断的な資質・能力が求められることになる。課題研究を通して、「より深い思考」を主体的に発揮できる生徒を育成し、生徒の多様な資質・能力を見いだすことは、入試改革による多面的・総合的評価への対応にもつながると考えられる。

資料5 課題研究3年間の活動の流れ



(4) 先進校視察（令和2年2月，広島県立尾道北高等学校，広島県立広高等学校）

カリキュラム・マネジメントと課題研究に関する研修のため，先進校視察を実施した。資料6は，両校の取組をまとめたものである。その後，両校の取組を参考にカリマネ策定委員会を設置し，本校生徒に身に付けさせたい資質・能力の検討をすることになった。

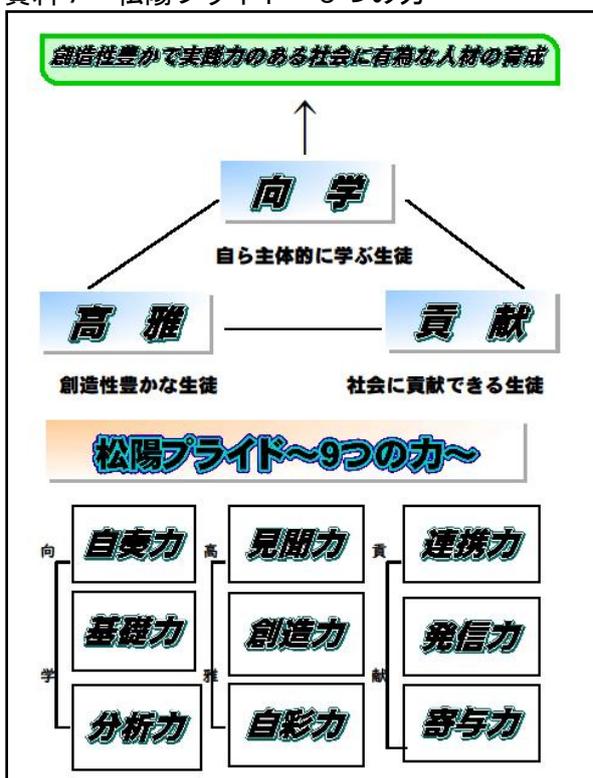
資料6 先進校の取組み

	広島県立尾道北高等学校	広島県立広高等学校
育成する資質・能力	習得力（基礎力）・思考力・提案力 実行力・メタ認知	論理的思考力・批判的思考力・対話力・表現力・積極性・協働性・柔軟性・創造性
カリマネ	育成する資質・能力の原案をつくるのに半年かかった。その後，教科に下ろし，語句や文言を検討するのに更に3か月かかった。	学びのグランドデザインと育成する資質・能力を評価するためのルーブリックを作成する。
課題研究	課題発見・解決学習を通して，情報の整理・分析とまとめ・表現の手法を身に付けさせる取組みを実施している。	高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクトの研究開発校であり，東京学芸大の助言をもらっている。
その他	定期考査の20%程度は，「思考・判断・表現」の観点に基づく問題を出題している。	授業時に，育てたい資質・能力を黒板にマグネットで貼る取組みを実施している。

(5) カリマネ策定委員会の設置（令和2年4月）

「社会に開かれた教育課程」の実現と学校教育目標達成のため，キャリア・ガイダンス部や教務部主任，各教科主任等11名から成る「カリマネ策定委員会」を設置した。まず，委員会にて各教科で検討された本校生徒に身に付けさせたい資質・能力を集約し，原案を作成した。その後，各教科で文言等の検討・整理を行い，本校生徒に身に付けさせたい「9つの力」を検討した。現在は，定期的に委員会を実施し，学校グランドデザインや「9つの力」のルーブリック評価（成功の度合いを示す尺度とそれに対応するパフォーマンスの特徴を記した記述語から成る評価基準表）の作成等を行っている。

資料7 松陽プライド～9つの力～



資料8 ルーブリック評価（案）

松陽PRIDE～9つの力～ 自己評価						
本校では，生徒の皆さんに，卒業までの3年間に，この9つの力を身に付けてもらいたいと思っています。そのために，授業や学校行事をはじめ，多くの教育活動に取り組んでいます。 あなたは今，どの位置にいますか。評価の欄にS～Cを記入して下さい。						
校訓	資質・能力	S	A（到達目標）	B	C	評価
向学	自律力	Aに加え，自分の個性や強みを生かした目標や計画を立てることができる。	自ら目標や計画を立て，実行することができる。	目標や計画を立てることができても実行に移せないことが多い。	目標や計画を立てることができない。	
	基礎力	Aに加え，身に付けた知識や技能を活用することができる。	基礎的な知識や技能を理解・習得することができる。	場面や分野によって，Aの時とCの時がある。	基礎的な知識や技能を理解・習得できていない。	
	分析力	Aに加え，論理的思考力や批判的思考力を活かすことができる。	必要な情報を収集し，わかりやすくまとめることができる。	必要な情報を収集することはできるが，わかりやすくまとめることができない。	必要な情報を収集することができない。	
高雅	見聞力	Aに加え，学んだことを生活に生かすことができる。	世の中の情報や多様な意見を受け入れ，学ぶことができる。	状況により，Aの時とCの時がある。	他者を理解せず，自分の考えに固執することが多い。	
	創造力	Aの結果，実際に新たなもの（方法，作品）を生み出したことがある。	既存のもの（方法，作品）にとらわれず，課題を見いだし，企画したり実行したりすることができる。	既存のもの（方法，作品）の中で変えることができるが，新しいもの（方法，作品）を模索しない。	既存のもの（方法，作品）を踏襲し，新しいもの（方法，作品）を模索しない。	
	自彩力	Aに加え，自己の適性を知り，それを進路選択に繋げることができる。	自分の長所，短所を理解し，物事に積極的に取り組むことができる。	自分の長所より短所が意識され，消極的になる場面がある。	自分の長所が見いだせず，何事にも自信を持っていない。	
貢献	連携力	Aに加え，リーダーシップを発揮することができる。	対話を通して他者と協力し，一つのことを成し遂げることができる。	状況により，Aの時とCの時がある。	自分一人で行き届くことができず，他者と協力して取り組むことができない。	
	発信力	Aに加え，より分かりやすくするために連絡を立てて説明することができる。	自分の考えを言語化し，伝えたいことを他者に伝えることができる。	状況により，Aの時とCの時がある。	自分の考えを言語化できず，伝えたいことを伝えられないことが多い。	
	寄与力	Aの結果，学校や地域に貢献し，社会に関与することができる。	学校や地域の取組みに積極的に参加している。	学校や地域の取組みに必要最低限の取組みをしている。	学校や地域の取組みに参加することができない。	
年 組 番 氏名						

(6) 研究開発通信の発行

職員アンケート（令和元年6月実施）によると、授業改善や評価問題の作成に不安を感じる職員も多いことが分かった。そこで、校内研究の進捗状況や各教科の取組状況等を研究開発係でまとめ、定期的に研究開発通信を発行することにした。通信の内容は、研究に関するだけでなく、カリマネ策定委員会の取組状況や書籍等の有益な情報も発信した。職員全体で情報を共有することにより、全職員で研究に取り組む雰囲気づくりにつながることができた。

通信 No. 1 研究の方向性編

☆☆ 研究開発通信 ☆☆ No.1 令和2年4月15日

みなさんこんにちは！研究開発係の松山です。今年度は、新しい試みとして、研究開発通信を発行してみることになりました。学級通信すらつくったことのない私が、いままでもっとか心配ですが、気が向いたときに発行いたしますので、お暇なときに読んで下さい。まずは、新しく赴任された先生方は、研究主題と今年の研究計画を確認して下さい。他の先生方も研究の方向性の確認をお願いします。読んでお分りの通り、今年度の計画には「教科横断的な視点」、いわゆる「カリマネ」の要素が含まれています。今回、新しくカリマネ策定委員会もつくられたので、ぜひ全職員で研究に取り組んでみませんか？今年度の僕のキャッチフレーズは、全職員を「まきこむ」。そして教科間を「つなぐ」です。公開授業担当者や係だけが取り組むのではなく、学校全体で取り組める研究開発を目指したいと考えています。1年間ご協力よろしくお願ひします。

I 研究主題

思考力・判断力・表現力の効果的な育成を目指す授業改善Ⅱ
—より深い思考や理解を促す授業づくり—

II 3年間の研究計画

年度	主な内容
平成30年度	卒業までに生徒に身に付けさせたい「思考力・判断力・表現力」の明確化 ・ 思考を促す場面や表現活動や教材のある授業づくり、評定問題の工夫 ・ 研究内容に基づいた授業の公開、実践事例や研究内容の発表
令和元年度	生徒の思考の足跡をたどり、学習理解を促める手立てとしてのポートフォリオの活用 生徒の主体性を育み、学習の自主性を促すための教育的ニーズに合った適切な支援の検討 ・ 研究内容に基づいた授業の公開、実践事例や研究内容の発表
令和2年度	より深い理解を促すために、関連した学習内容のある単元や教科との連携 ・ 創造性豊かで実践力のある社会に育む人材の育成（学校教育目標）へのアプローチ ・ 研究内容に基づいた授業の公開、実践事例や研究内容の発表・研究成果の検証、まとめ

III 今年度の研究の方向性

<p>①より深い理解を促すために、関連した学習内容のある単元や教科との連携</p> <p>→ ポートフォリオの更なる工夫、教科を横断した評価問題の作成</p> <p>→ ポートフォリオの活用（振り返りの結果をどのように次の行動に移させるか）</p> <p>→ 教科を横断した評価問題の作成（必ずしも、1学期の中間考査で出題） ※ 今後は、Classiにて配信していく予定です。</p>	<p>②創造性豊かで実践力のある社会に育む人材の育成（学校教育目標）へのアプローチ</p> <p>→ 思考力・判断力・表現力の評価方法の工夫と共有</p> <p>→ 思考力・判断力・表現力の評価方法を工夫する。（例えば、ルーブリックの作成）</p> <p>→ カリマネ策定委員との連携（必ずしも、学校全体で育成したい資質・能力の検討から）</p>	<p>③研究内容に基づいた授業の公開、実践事例や研究内容の発表・研究成果の検証、まとめ</p> <p>→ より深い思考や理解を促す授業方法の更なる工夫、評定問題の結果分析による検証</p> <p>→ 授業改善（思考力を育成しながら知識の定着を図る）</p> <p>→ 生徒の定着を促進する。（例えば、アンケートの実施）</p> <p>→ 評価結果を共有（例えば、昨年度と比較する）</p>
--	---	--

通信 No. 6 カリマネ策定委員会報告編

☆☆ 研究開発通信 ☆☆ No.6 令和2年5月18日

☆第1回カリマネ策定委員会報告

5月8日（金）に第1回カリマネ策定委員会が実施されました。センター連携の研究内容とも関係が深いため、適度に報告させていただきたいと思ひます。資料は、先生方より提供していただきました。（お疲れ様です）今回は、各教科から提出された「生徒に身に付けさせたい資質・能力」を集約する作業を行いました。付箋を使ったワークショップ形式で実施され、似たような資質・能力をグループ分けし、ネーミングを行いました。1時間程度の会でしたが、みんなで一生懸命考えました。



☆次の委員会までの検討事項

次の委員会（1学期期末考査後）までに、このネーミング（資質・能力）でよいかを各教科で検討してもらうこととなります。詳しくは、委員の先生方から説明があると思ひます。完成イメージに合わせて、自校で育てたい生徒像や身に付けさせたい資質・能力を全職員で考えていきましょう！また、本校らしいネーミングを考えてみてはいかがでしょうか。（富野教頭よりアドバイス）

☆委員会までまとめたネーミング（資質・能力）

- ・ 自立心
- ・ リーダー性
- ・ 思考力
- ・ 自己分析力
- ・ 多様性
- ・ 向上心
- ・ 情報処理能力
- ・ 耐力
- ・ 協働性
- ・ 資質力
- ・ コミュニケーション能力
- ・ 創造性
- ・ 人間性
- ・ 多様性
- ・ 自己肯定感
- ・ 適応力
- ・ 読解力
- ・ 基本的知識

更にグループ化
絞り込み
ネーミングの検討

完成イメージ

創造性豊かで実践力のある社会に育む人材

→ 思考力・判断力・表現力

→ 協働性・コミュニケーション能力

→ 読解力・基本的知識

通信 No. 9 パフォーマンス課題編

☆☆ 研究開発通信 ☆☆ No.9 令和2年8月17日

☆パフォーマンス課題を設定してみよう！

今回は、私の授業で実践している「パフォーマンス課題」について紹介したいと思います。「パフォーマンス課題」とは、**複数の知識やスキルを統合的に使いこなすことを求めるような複雑な課題**を意味します。このような課題は、全ての授業で用いる必要はありませんが、適した単元で実施したり、単元のまとめの課題として実施したりすることをおすすめします。ワークシートを回収すれば、「思考・判断・表現」の観点の評価をするための材料にもなります。以下に、実際に実施した授業を紹介いたします。

☆実践例【3年物理・光の干渉】

【パフォーマンス課題】

あなたは、市立科学館のアルバイトとして、ある実験講座を実施している講師のアシスタントを友達と二人で務めることになりました。実験講座終了後に小学6年生の賢そうな男の子からシャボン玉が色づく理由を聞かれました。講師は不在です。あなたはどのように回答しますか？

主な学習内容	指導上の工夫
導入	
1 前時の復習	1 今回の学習の 柱となる知識 の復習をさせる。
2 課題設定	2 「 面白い 」を 意識 させる。
3 最初の回答（個人学習）	3 個人で 思考させ、書き出し、整理させる。
展開	
4 観察（しゃぼん玉の観察）	4 条件を制御 させる。
5 考察（着目点思考する）	5 つまずきに応じてヒントを与える。
6 最後の回答（ペア学習）	6 考えを 繰り返して 議論を促す。
7 発表	7 他者の 意見を 共有させる。
8 演習（共通テスト試行問題）	8 プレゼンタで出題されていることを知らせる。
まとめ	9 最初と最後の自分の回答を比較させることにより、 思考の過程 を確認させる。

【生徒のワークシートより】

生徒の最初の答え	生徒の最終的な答え
・シャボン玉の膜に縦線に反射しているから。	・シャボン玉は、膜の厚さが下部ほど厚くなる。膜の厚さによって曲がる光の波長が決まる。光は波長によって色が違うため、色づき方も変わる。
・光が干渉しているからだよ。	・ 厚さ により膜の厚さが下のほうが厚くなります。膜の厚さが変わると曲がる光の波長も変わります。波長が長くなると色も変わります。例えば、波長が小さいと紫や青が見え、波長が大きくなると橙色や赤色が見えます。

通信 No. 15 研究授業編

☆☆ 研究開発通信 ☆☆ No.15 令和2年7月27日

☆初任者研修(研究授業)紹介！

今回は、7月14日に行われた星原先生(保健体育科)の初任者研修(研究授業)を紹介したいと思います。授業の様子をかってにままとしてみました(苦笑)。小学校での経験があるそうで、生徒を主体的に活動させるのがすごく上手だと感じました。同じく初任者の上玉利先生(英語)の授業は、時間割の都合で参観できませんでした。次の機会に、公開授業の様子を紹介できたらと思っています。

☆研究授業【1年8組・保健】

【学習課題】

新型コロナウイルスの感染を予防するために、自分にできることは何だろうか？

	主な学習内容	
導入	1 前時の復習	・生徒が積極的に発表していました。生徒たちは、毎週の授業を普段から楽しみにしているように感じました。
	2 若年層が感染症を予防することの大切さを確認する。	
	3 本時の学習課題を確認する。	
展開	4 現在行っている対策を確認する。	・活動は、タイマーを使用して時間を計りながら行われており、メリハリのある授業でした。先生の説明も丁寧で分かりやすかったです。
	5 感染予防の原則を確認する。	
	6 現在行っている対策の具体例を分類する。	
	7 個人ができることや、社会に求める感染症対策を考える。	
	8 グループで出された対策を振り返る。	
まとめ	9 まとめワークシートに記入する。	・生徒の取り組み状況に合わせて、ヒントを与えていました。

・感染症対策を意識したグループ活動の様子。グループによって向きを変えて活動させています。



・偶数グループは、後ろを向いて活動。奇数グループは、前を向いて活動。

・グループごとに話し合った内容を黒板に掲示させ、意見を共有させています。

(7) SSTPの活用

本校の研究内容に即した形で授業計画を作成でき、相互授業参観用としても活用できる松陽版簡易指導案＝SSTP (Shoyo Simple Teaching Plan) を開発した。従来の詳細な指導案は、専門性を高めることはできるが、専門外の教職員には「指導方法」や「評価」を共有するのが難しいという問題点があった。SSTPは、1枚の用紙で具体的な「指導方法」や「評価」を見通せる指導案として作成することができる。また、カリマネ策定委員会で検討した「9つの力」の中から中心的に活用させる資質・能力を記入する欄を設け、教科横断的な視点の授業実践ができるように工夫した。

SSTP (記入方法)

教科	〇〇	科目	〇〇〇〇
指導者	〇〇 〇〇	指導教室	〇年〇組 (〇〇教室)
指導日	令和〇年〇月〇日 (〇)	指導時間	〇限目 (: ~ :)
単元名	単元名〇〇〇〇 (本時の内容〇〇〇〇)		
課題	「質の良い課題」を設定する。(解説2を参照)		
思考を深める問い	「本質的な問い」を立てる。(解説3を参照)		
生徒の理解した姿	「永続的理解」を明記する。(解説4を参照)		
活用する資質・能力	資質・能力	活用場面 (内容)	
	特に中心的に活用させたい資質・能力を最大4点示す。(解説5参照)		
活用する資質・能力に対するルーブリック	A	「予備的ルーブリック」を作成する。課題そのものではなく、活用する資質・能力が本時の課題でどのように変化するかを記述します。	
	B	「A」が本時の到達目標であり、「B」ではないことに注意してください。(解説6参照)	
	C		
指導過程	主な学習活動		深い思考や理解を促す工夫
	導入		
	展開	「授業改善の視点」で簡潔に示す。(解説7参照)	
	まとめ		

SSTP (記入例)

教科	地理歴史	科目	日本史B
指導者		指導教室	
指導日		指導時間	
単元名	織豊政権		
課題	「港」「寺」「城」の視点から織田信長が天下統一を進めることができた背景をとらえる。		
思考を深める問い	他の戦国大名よりも戦の勝率が低い織田信長が、他の戦国大名よりも圧倒的な領地を支配し天下統一を進めることができた背景は何か。		
生徒の理解した姿	「織田信長が天下統一を進めることができた背景に、豊かな経済力があつた」ということが分かる。		
活用する資質・能力	資質・能力	活用場面 (内容)	
	連携力	他者と協調し、課題の解決を目指す。	
	基礎力	中世の「寺」「城」の概念。	
	分析力	資料を読み取り、解釈する。	
活用する資質・能力に対するルーブリック	A	既習概念を踏まえ資料の内容を正確に把握して、課題の解決にいたる。	
	B	既習概念を踏まえ資料の内容を概ね把握し、課題を解決しようと努力する。	
	C	既習概念を踏まえ資料の内容をある程度把握し、課題を解決しようと努力する。	
指導過程	主な学習活動		深い思考や理解を促す工夫
	導入	1 織田信長は、他の戦国大名よりも負け戦の率が高いことに気付く。 2 「問い」の設定 「織田信長が天下統一を進めることができた背景は何か」	1 生徒が驚きや違和感を抱くような事例の提示や「問い」を設定する。
	展開	1 「仮説」の提示 「豊かな経済力を背景に他の戦国大名よりも大規模な兵農分離を行うことができた」	1 兵農分離が織田信長の専売特許であったという従来の解釈とは異なる資料を提示し、生徒の思考を揺さぶる。
	まとめ	1 「仮説」の検証 「港」「寺」「城」の視点から仮説の検証を行う。	1 既習概念を踏まえ資料を読み取らせ、「豊かな経済力」と「港」「寺」「城」の関連について考察するよう促す。 2 グループで話し合わせワークシートにまとめさせる。

カリマネ策定委員会にて検討した「9つの力」

校訓	資質・能力	定義
向学	自奏力	自ら目標を決めて実行し、自分の個性を伸長する力
	基礎力	基礎的な知識や技能を理解・習得するために継続して努力する力
	分析力	必要な情報を収集し、適切に判断・処理できる力
高雅	見聞力	他者の価値観を尊重し、世の中の情報や多様な意見を受け入れ、学ぶことができる力
	創造力	課題を発見し、企画したり探究したりすることで、新たな価値を生み出すことができる力
	自彩力	達成感の積み重ねから自信を持ち、自己評価・分析ができる力
貢献	連携力	対話を通して他者と協力し、一つのことを成し遂げることができる力
	発信力	自分の考えを言語化し、筋道を立てて分かりやすく他者に伝える力
	寄与力	社会に関与する姿勢を持ち、学校や地域の取り組みに積極的に貢献することができる力

「9つの力」を観点別に示したもの

【知識・技能】 基礎力	【思考力・判断力・表現力】 見聞力 創造力 分析力 発信力	【主体的に学習に向かう態度】 自奏力 自彩力 連携力 寄与力
-----------------------	--	---

実践例1 (3年物理)

パフォーマンス課題(複数の知識やスキルを総合的に使いこなすことを求めるような複雑な課題)を設定し、分析力や発信力の育成を図った。

ルーブリックでは、活用する資質・能力が、課題に取り組む中でどのように変化するかを示す。ルーブリックを作成することは、指導前に目標や評価規準を明確にするのに役立つ。実際の評価では、パフォーマンスの事例を入手した上で、改めてルーブリックづくりを行い、尺度を細かく分けたり、記述語を練り直したりする必要がある。

教科	理科		科目	物理
指導者			指導教室	3年4組(物理室)
指導日	令和2年6月17日		指導時間	2限目(9:55~10:45)
単元名	光の干渉(薄膜干渉)			
課題	あなたは、市立科学館のアルバイトとして、ある実験講座を実施している講師のアシスタントを友達と二人で務めることになりました。実験講座終了後に小学6年の賢そうな男の子からシャボン玉が色づく理由を聞かれました。講師は不在です。あなたはどのように返答しますか?			
思考を深める問い	シャボン玉の場所によって、強めあう色が異なるのはなぜか。			
生徒の理解した姿	シャボン玉は、下部ほど膜が厚いため、場所により異なる波長の色の光が強めあうことが分かる。			
活用する資質・能力	資質・能力	活用場面(内容)		
	基礎力	光の干渉条件に関する基礎知識		
	分析力	観察結果と既習知識を関連付けて整理する。		
	発信力	分かったことを道筋を立てて説明する。		
活用する資質・能力に対するルーブリック	A	必要な情報や知識を正確に整理し、わかりやすく説明できる。		
	B	必要な情報や知識を正確に整理し、説明しようと努力する。		
	C	必要な情報や知識をある程度整理し、説明しようと努力する。		
指導過程	主な学習活動		深い思考や理解を促す工夫	
	導入	1 前時の復習	1 今回の学習の核となる知識の復習をさせる。	
		2 課題設定	2 「問い」を理解させる。	
3 最初の返答(個人学習)		3 個人で思考させ、書き出し、整理させる。		
展開	4 観察(しゃぼん玉の観察)	4 条件を制御させる。		
	5 考察(着目点を思考する)	5 つまずきに応じてヒントを与える。		
	6 最後の返答(ペア学習)	6 考えを練り直す機会を与える。		
	7 振り返り	7 他者の意見を共有させる。		
		8 プレテストで出題されていることを知らせる。		
		9 最初と最後の自分の返答を比較させることにより、思考の過程を確認させる。		

教科	英語	科目	コミュニケーション英語Ⅰ	
指導者		指導教室	1年7組教室	
指導日	令和2年10月14日(水)	指導時間	2限目(9:55-10:45)	
単元名	Lesson 4 Owen and Mzee: An Amazing Friendship Part 2			
課題	Part 2の内容を、本文を見ないで英語で説明する。			
思考を深める問い	本文の内容を適切にまとめるには、どうすればよいか。			
生徒の理解した姿	本文の内容を要約し、適切に説明するためには、つなぎ言葉を使うとよい。			
活用する資質・能力	資質・能力	活用場面(内容)		
	基礎力	語彙や熟語の意味と発音を把握する。		
	分析力	本文の中で、要約に必要な箇所を抜き出す。		
	見聞力	本文の内容を深く理解する。		
発信力	自分が学んだ内容について英語で発信する。			
活用する資質・能力に対するルーブリック	A	最小限の支援のもとで、英文の内容をしっかりと説明できる。		
	B	いくらかの支援を必要としつつ、英文の内容を不完全ながらも説明できる。		
	C	かなりの支援のもとで、英文の内容を説明しようと努力する。		
指導過程	主な学習活動		深い思考や理解を促す工夫	
	導入	1 前時で習った重要表現と指示詞を確認する	1 ペアで問題を出し合い、確認させ、指示詞を確認しながら、二匹の位置関係を確認する。	
		2 本時の課題を理解する「Part 2の内容を本文を見ないで英語で説明できるようにしよう」		2 目標を確認させ、活動の意義を理解させる。
		3 全体や個人やペアで様々な音読をすること		3 発音の確認→意味と英文を結びつける→英文の流れを確認し、本文の内容と英語の表現をしっかりと身に付けさせる。
	展開	4 本文の内容を表した絵を見ながら、Part 2の要約となるような英文を考える。	4 美術科の生徒に描いてもらった絵を見ながら、それぞれの絵がどの英文に当たるか考えさせる。	
		5 絵だけを見て、Part 2の要約を言えるように(retellingできるように)練習する。	5 全体でどのような要約になるかを確認し、つなぎ言葉を考えさせ、キーワードのみ板書に残し、全体とペアで練習させる。	
まとめ	6 全体で、完成した要約を確認する。	6 ペアで練習したもので正しいかを確認させ、家で練習できるように、メモを残させる。		
	7 7回目の授業の最初に、数人に発表してもらうので、家で練習してくるよう伝える。	7 その場の短期的な記憶で終わるのではなく、長期的に記憶に残るように、自宅での練習の時間をとる。		

実践例2 (1年コミュ英語Ⅰ)

生徒たちが背伸びをすれば手が届くような課題を設定し、分析力・見聞力・発信力の育成を図った。

指導過程では、生徒に深い思考や理解を促すための手立てを示す。職員間で共有することにより、授業改善につながると考えられる。

V 各教科の研究と成果・課題

1 深い思考を促す発問の工夫

(1) 実践内容

資料9は、各教科が生徒に「より深い思考や理解」を促すために行った発問の工夫をまとめたものである。学習内容を理解させるだけでなく、教科特有の「見方・考え方」を働かせて、その教科を学ぶ意義を伝えるようにした。SSTP（松陽版簡易指導案）では、深い思考を促す発問を行うために「本質的な問い」を立てることにした。資料10は、「本質的な問い」についてまとめたものである。

資料9 各教科の取組

国語	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動において、本文中にある様々な情報を基に答えをまとめていくような、結論に幅のある発問を用意する。 発問に対する生徒の答えに対して、追加質問をすることで、最初の答えに揺さぶりをかけたり、多角的に思考を巡らせたりするような発問を心掛ける。 解決しない発問も時には提示し、知的欲求を喚起している。
地歴公民	<ul style="list-style-type: none"> 「いつ・どこで・何が・誰が・なぜ」といった発問をすることで、歴史的な事件をそれぞれ答えさせ文章（作文）を作らせる。 「if～then」（＝「もしも～ならば～だろうか」という問いを設定し、より自由に意見を述べさせることで、生徒の思考を深めさせる。 「what」→「why」→「how」に基づく単元計画、授業設計を行い、生徒の思考を段階的に深めさせる。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 問題文の条件を問い、後に条件の使える定理を問うなど、思考の過程を導くような問い掛けを行う。 数学的表現を用いて計算過程を言語化させるような問い掛けをする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容と既習事項を関連付けた問い掛けを行い、学習内容と既習事項を結び付け、深い理解につなげる。 身近な例と学習内容を結び付けることでより深い理解につなげる。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 本文に書かれた情報に、生徒の知識や経験を加え、本文に書かれていない内容を推測させる発問や、本文に対する生徒の考えを表明させる発問をする。 授業でインタビューテストやスピーチテストを取り入れることによって、生徒の思考力・表現力を育成する。

資料10 本質的な問い

- ・ 答えが一つではない問い
- ・ 既習知識や資質・能力を総合的に活用し、解決に向かう問い
- ・ 思考を誘発し、知的に興奮させる問い
- ・ 更なる問いを生み、探究心を育む問い
- ・ 様々な場面や文脈で活用できる問い
- ・ 様々な情報を活用し、解決に向かう問い

(2) 課題

ア 基礎学力が身に付いていない生徒に対する指導をどのように行うか。また、生徒の有している知識・技能を他の知識と結び付けさせて考えたり、活用したりする力をどのように育成するか。

（国語）

イ 議論の深まりや生徒同士で教え合う場面の分析が不十分であった。（地歴公民）

ウ グループ活動が停滞する場面があった。その原因として、授業者が生徒の思考過程をスモールステップにしていないことがあげられた。（数学）

エ 科学的な思考の深まりは見られるものの、基礎的な学習内容が定着しているかどうかを確実に見取ることができない。（理科）

オ 英語の基礎的な知識がない状態で、深い思考を促す問い掛けをしようとする、教員が本文の内容を日本語で教えすぎてしまう危険性がある。（外国語）

2 主体的な思考を促す授業方法・教材の工夫

(1) 実践内容

上記の発問の工夫に加えて、平成 29 年度までの研究で成果をあげた「アクティブ・ラーニング」による手法を用いた授業を実践したり、学びの目的や必要性を意識させる学習過程、教材、板書などの工夫をしたりした。資料 11 は、各教科の取組をまとめたものである。SSTP（松陽版簡易指導案）では、主体的な思考を促す授業方法を実践するために「質の良い課題」を設定することにした。資料 12 は、「質の良い課題」についてまとめたものである。

資料 11 各教科の取組

国語	<ul style="list-style-type: none"> ペア・グループ学習を取り入れることで、多様な意見や考えを傾聴し、共有する機会を多くもてるような授業を実践している。 思考を促し揺さぶる課題の設定をすることで、論述問題への取組や解答にも変化が現れてきている。
地歴公民	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自力で教科書や資料集を読んで要点をノートにまとめたり、新聞記事の読み取りを共同で行ったりする活動を通し、主体的に学習に取り組む姿勢を育成している。 意見を考えさせる際に、まずは個人で考える時間を設け、その後、ペアやグループで意見交換を行わせるようにしている。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 問題演習の際には、問題を解けない生徒が、解けた生徒に質問しやすい環境づくりや声掛けをしている。 3, 4人程度のグループを活用し、お互いに教え合うことで主体的な学びを意識させている。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 身近な道具で実験させることで、授業への関心を高めさせる。また、ICTを活用して意見を共有させることで、自分事として捉えさせる。 個人活動の時間とペア・グループ活動の時間は、タイマーを使用して分けることで、まず自分の力で考えることの大切さに気付かせる。 解説動画付きの課題を配布し、自宅学習に積極的に取り組む生徒を増やす。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 授業の導入時にはスモールトークを実施し、展開時には italk を実施している。 ジグソー法などのグループ活動やペア活動、プレゼンテーションや音読などのパフォーマンス活動を單元ごとに入れることで、生徒に主体的な学習を促している。

資料 12 質の良い課題

<ul style="list-style-type: none"> 本質的な問いに対応した課題 日常生活と関連した課題 生徒たちのやる気を起こさせるような課題 生徒たちが背伸びをすれば手が届くような難易度の課題
--

(2) 課題

ア より深い理解・思考を育成するため、現代文や古典を関連付けたり、複数資料を読み取らせたりするような教材を開発する必要がある。（国語）

イ グループ活動をする際、基礎的な知識の定着不足のため、思考の深化がやや不十分であった。（地歴公民）

ウ 基礎的な知識や計算力の必要性を意識させ、主体的に基本例題や公式活用に取り組むように促す必要がある。（数学）

エ グループ活動などでは、積極的に活動する姿が見られるが、課題への関心度合いに差があったり、基礎的な知識が不足したりしていることから、議論に参加できない生徒や問題解決まで到達できない生徒が見られた。（理科）

オ パフォーマンステストについては、発問の内容や方法等、計画が不十分であった。テストの信頼性、妥当性、客観性及び効率性について職員間でもっと議論し、評価を行う必要があった。（外国語）

3 教科横断的な視点の授業実践

(1) 実践内容

今年度から取り組んだ教科横断的な視点の授業実践では、無理にコンテンツをつなげるのではなく、学校全体で身に付けさせたい資質・能力を育成するために教科の視点で授業に落とし込むことに焦点を当てた。よって、カリマネ策定委員会にて検討した「9つの力」を身に付けさせるという教育目標を教職員間で共有し、SSTPを活用することで授業改善を行っている。教科によっては、他教科のシラバスを念頭に置き、内容が近い単元の実施時期を把握したり、授業計画を共有したりする取組も実施している。資料13は、各教科の取組をまとめたものである。

資料13 各教科の取組

国語	<ul style="list-style-type: none"> 現代文の評論教材において学習した「物心二元論」について、倫理担当教諭と連携し、同じ教材を使って倫理の授業を行ってもらい、重層的な指導を行った。 知識内容を定着させ、興味関心を高めるために、高い集中度で臨む考查問題の課題文に生徒の知識を増やす内容を意識的に取り入れた。 思考力・判断力・表現力を高めることを目的として、全学年で定期考查における出題に手立てを講じた。授業で学習し、身に付けた語彙力や読解力、表現力を使って、授業では学習しなかった文章を読解させるという大問を設けた。特に、2年生では、教科書に掲載されている文章を予め指定し、生徒は事前に文章を読んで内容を把握した上で試験に臨むようにさせた。1年生では、学習した教材に関連した内容の文章や発展させて考えることができる文章を出題した。
地歴公民	<ul style="list-style-type: none"> 「世界史A」の授業で「自由とは何か」、「平等とは何か」について討論したことを踏まえ、「情報」の授業で扱うメディアリテラシーの概念について多面的・多角的に考察させた。 「倫理」の授業で扱われる物心二元論への理解を深めさせるために「現代文」の授業で扱われる「環境問題と孤立した個人」の記述内容を活用した。 記述問題では論点や解答の条件を明確にした出題を行い、評価に一貫性をもたせるようにした。〔出題例：〇〇が与えた影響について、□□の名称を明らかにして述べよ。その際、△△という語句を必ず用いること（下線部が論点や解答の条件に該当）〕
数学	<ul style="list-style-type: none"> 評価問題については、観点別評価を考慮し、知識・技能だけでなく、数学的な見方・考え方を問う出題を心掛けた。特に近年の高校入試でも出題され、今年度から行われる大学入試共通テストでも出題が予想される会話文形式での出題を積極的に取り入れた。生徒も慣れていないせいか正答率は高くないが、繰り返し出題することにより、問題文をしっかりと読み、考えることにより深い理解へとつながることを期待している。
理科	<ul style="list-style-type: none"> パフォーマンス課題（複数の知識やスキルを総合的に使いこなすような複雑な課題）に取り組ませた。その際、本校生徒に身に付けさせたい「9つの力」の中から特に活用させたい力を明確化し、生徒が課題解決のためにその力をどのように活用できたかをループリックで評価した。このような課題に取り組ませることで、生徒自身に「9つの力」を意識させながら授業に取り組ませることができた。 文系「生物基礎」の授業で、「生物を習っていない人に生物の内容を分かりやすく伝える」という課題を設定した。生徒は、対話形式の文章や小説風の文章でまとめることで、思考力や表現力を発揮した。 「物理基礎」の定期考查で、課題研究での発表を題材とした評価問題を出題し、身に付けさせたい「9つの力」の中から「分析力」、「発信力」が身に付いているかを評価した。 「化学」の内容と「家庭科」の内容による教科横断的な授業を実践したり、評価問題を作成したりした。化学で学習した内容を日常生活と結び付けさせることで、知識の定着を図った。

外国語	<p>[英語コースでの取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 以前より、国際理解など、「英語を通して世界を学ぶ」取組を行っている。今年度は、国連が提唱している SDGs（持続可能な開発目標）の中から、生徒がテーマを設定し、英語のプレゼンテーションを作り、発表活動につなげている。 <p>[英語コース以外での取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「英語」と「世界史」の教科横断型授業として、アメリカの公民権運動の先駆けとなった人物についての英文を読む前に、海外で使われる人権教育用の動画を見せた。また、学習後の定期考査で現代の人権に対する意見を述べさせた。 ・ 「英語」と「家庭科」の教科横断型授業として、「鹿児島の郷土料理」について材料や調理法などを調べさせ、英語で発表させた。また、「日本の弁当」についての英文を読み、本文では触れられていない手作り弁当のデメリットについて考えさせる問いを定期考査で出題した。 ・ 「握手の起源」についての英文を読み、定期考査では、新型コロナウイルスの時代における「握手以外の新しい挨拶の方法」について考えさせる問題を出題した。「国語総合」においても、同じ定期考査で「新しい生活様式における挨拶」に関連した文章を提示し、内容面での教科横断的な出題を試みた。
-----	--

(2) 課題

- ア 教科横断的な視点の授業が散発的になってしまうため、継続的に指導を行うために指導者側が意識をもって教材研究や情報の収集を行う必要がある。（国語）
- イ 教科横断的な視点の評価問題を作成する際不可欠なことは、問題の作成者が問題の目的を明確にもつということである。それは、「そもそもこれは何の教科のテストなのか」、「生徒に身に付けさせたい概念は何か」といった視点をもつということである。これらの視点が欠如していると、例えば「政治・経済」のテストが「数学」や「英語」等、他教科の問題になってしまうことが起こり得る。（地歴公民）
- ウ 教科横断的な視点の評価問題を作成する場合、出題範囲の単元に収まらない場合があった。授業時の興味をもたせる話題として、また実力考査での総合問題として活用できないか研究を深める必要がある。（数学）
- エ 身に付けさせたい資質・能力を評価するためのパフォーマンス事例が少なく、評価規準を明確にすることができていない。今後、継続してパフォーマンス課題を実践し、収集した生徒のパフォーマンスの特徴を基に評価規準を練り直す必要がある。（理科）
- オ 教科横断的な視点の評価問題で見取りたいものが、英語力なのか、それ以外の力なのかが不明瞭になってしまうため、例えば「批判的思考力」や「創造力」を「英語のテスト」で見取るとはどのようなことであるのかについて、指導者側で共通理解をもつ必要がある。（外国語）

4 ポートフォリオの活用

(1) 実践内容

生徒自身に授業におけるグループ活動状況や個人の実践の記録を取らせることは、思考の足跡をたどり学習理解を深める手立てとして期待できる。今年度は、生徒に蓄積させた振り返りの結果を次の行動に移させる手立てについても検討した。以下に、各教科で取り組んできたポートフォリオの活用例を示す。

外国語 K(知っていること)、W(知りたいこと)、L(学んだこと)、N(今後学びたいこと)を記入させ、深い学びにつなげる。

〈9月5日〉今日学習した内容を簡潔にまとめてみよう! 「運動量と力積」

運動量の変化 = 力積 $m\vec{v}' - m\vec{v} = I$ $I = F \Delta t$

この式は $m\vec{a} = F$ に Δt をかけて両辺を Δt で割るとできる!!

〈9月11日〉今日学習した内容を簡潔にまとめてみよう! 「平面運動における運動量と力積」

① 原点を O とし、 x 軸と y 軸をとる。
 ② x 軸と y 軸の運動量をそれぞれ p_x と p_y とする。
 ③ 力積 I_x と I_y を求める。
 ④ x と y の運動量はそれぞれ p_x と p_y である!!

〈9月18日〉今日学習した内容を簡潔にまとめてみよう! 「直線運動における運動量保存則」

運動量保存則 $m_1 v_1 + m_2 v_2 = m_1 v_1' + m_2 v_2'$

運動量の変化 = 力積の関係!!
 $\Delta p = I$ である!!

〈9月24日〉今日学習した内容を簡潔にまとめてみよう! 「平面運動における運動量保存則」

① x 軸と y 軸の運動量をそれぞれ p_x と p_y とする。
 $m_1 v_{1x} + m_2 v_{2x} = m_1 v_{1x}' + m_2 v_{2x}'$
 $m_1 v_{1y} + m_2 v_{2y} = m_1 v_{1y}' + m_2 v_{2y}'$

【まとめ】 物体の衝突や分裂について学んだことをまとめてみよう。

運動量保存則 $m_1 v_1 + m_2 v_2 = m_1 v_1' + m_2 v_2'$
 運動量の変化 = 力積 $m\vec{v}' - m\vec{v} = I (= F \Delta t)$

★ 平面運動のときは、 x 軸と y 軸の運動量をそれぞれ p_x と p_y とする。

理科 単元ごとの一枚ポートフォリオを作成させることで、学習プロセスや学習内容を振り返らせ、自分の成長を実感させたり、既習内容と関連付けた理解を促したりした。

このシートは毎回の授業での活動の振り返りと「学び」の蓄積を行います。

「5/21」プリント「No102」	三角関数	(学) $180^\circ = \pi$ という基本から問題に慣れる。
「5/24」プリント「No104」	三角関数	(疑) 角と弧長法で表すときの半径とは何?
「5/27」プリント「No104」	三角関数	(学) $\sin\theta, \cos\theta, \tan\theta$ の値を求める。
「5/27」プリント「No104」	三角関数	(疑) 円の半径とかと求めたいと $\sin\theta$ などの値
「5/27」プリント「No105」	三角関数	(学) 公式を用いて等式を証明する。
「5/27」プリント「No105」	三角関数	(疑) どうやって形を公式のように変形するの
「5/27」プリント「No105」	三角関数	(学) グラフをかき、その周期を求める。
「5/27」プリント「No105」	三角関数	(疑) $\sin\theta, \cos\theta, \tan\theta$ の波の形をそれぞれ
「5/28」プリント「No105」	三角関数	(学) 通常とはずれたグラフをかき、その周期を
「5/28」プリント「No105」	三角関数	(疑) どうやってグラフをずらすればいいの?
「5/28」プリント「No106」	三角関数	(学) グラフを平行移動したり、傾斜、 x 軸と y 軸
「5/29」プリント「No107」	三角関数	(疑) グラフの初期値がわからない。
「5/29」プリント「No107」	三角関数	(学) 三角関数の性質について。
「5/29」プリント「No107」	三角関数	(疑) $\sin(\frac{\pi}{2} + \theta) = \cos\theta$ になる理由。
「5/30」プリント「No107」	三角関数	(学) 三角関数の性質について。
「5/30」プリント「No107」	三角関数	(疑) 式のおきかえができない。これが理由
「5/31」プリント「No108」	三角関数	(学) $0 \leq \theta < 2\pi$ のときの方程式を解く。

数学 授業の最後に必ず振り返りシートへの記入時間をつくり、単元ごとのポートフォリオを作成させ、定期考査前の振り返りに活用させた。

理科 定期考査後、生徒にルーブリックによる自己評価をさせ、行動の変容を促す手立てとした。

地歴公民 評価問題の点数を観点別に分けて生徒に示し、結果を蓄積させることで生徒に成長を実感させる手立てとした。(表は、現行学習指導要領の観点に基づいたものである)

レベル	勉強の開始時期	勉強方法	テスト中	テストの点数
S (4点)	テスト2週間以上前から計画的に勉強に取り組んだ。	範囲の問題を2回以上解き、分からない問題は質問した。	思考・判断・表現の問題にも粘り強く取り組んだ。	思考・判断・表現の問題も含めて目標点数に達した。
A (3点)	テスト1週間前から計画的に勉強に取り組んだ。	範囲の問題を2回解いた。	思考・判断・表現の問題にも取り組んだ。	目標点数におおよそ達した。
B (2点)	テスト直前に慌てて勉強に取り組んだ。	範囲の問題を1回解いた。	時間いっぱい取り組んだ。	目標点数に少し達しなかった。
C (1点)	当日に確認した程度。または、しなかった。	範囲の問題を解き終わることができなかった。	テストの途中で解くのを諦めた。	目標点数に全く達しなかった。
点数	3点	3点	4点	3点
合計				13点/16点

● 次回のテストに向けてどのように取り組みますか?

力学への波の伝わりを覚えているので、期末考査までに土日を使って復習をしたいと思います。そして考査一週間前が5/27(土)で、その日のうちに物理の範囲を勉強したいです。その日のうちに物理の範囲を勉強したいです。

	知識・理解	資料活用	思考・判断・表現
内訳	A / 50	B / 33	C / 17

テーマ 植物と環境

・主役：博士
 ・その他登場するもの：生徒
 ・この話の背景の設定：植物と環境についてわからないところと博士がおしえる。

そもそも植生とは
 植生とはある場所に生育している植物の集まりのこと。外側から見れば植生の様相と相観という。また、植生を構成する種のうち、最も広い空間を占める植物を優占種という。

①：博士、環境形成作用って何ですか？
 ②：まず、作用というのは、生物が環境から受けるさまざまな影響のこと。こういうことはわかるよね。環境形成作用、というのはその逆で、生物の働きかけによって環境が変わっていくこと。例えば森林内で強風が吹きさらされて、落葉の蓄積で養分の多い土壌が形成される。③：なるほど...。それと、森林の構造は階層構造でよね、それはわかるけど、内容をおしえてもらいたいの。④：階層構造が発達した森林では林冠(森林の最上層にある葉と枝が集まった部分)に高木層があり、その下に巨木層、低木層、草本層、コケ層などの各層がみられる。右の図をみてみよう。林内の上から照射する光の強さは、高木層より下で急激に減少する。⑤：なるほど。次に植生の生産構造についておしえてください。⑥：一定面積の植生と上から何層かに分り、同化器官と非同化器官の重量と光の強さをそれぞれ層ごとに示したものを生産構造といい、層別採取法によって作成される。広葉型：光が上層の葉でさえぎられ、下層まで届かない。イネ科型：細長い葉が斜めに立ち、光は下層まで十分に入る。⑦：今回おしえていたのがそのあたりですか？

理科 学習した内容を対話形式等の文章でまとめる課題。生徒は、単元ごとに蓄積していく。

国語 授業の理解度を記録させ、蓄積させた。

(10月7日)
 ・何を学んだか
 テスト 返却
 ・どう学んだか 間違えた所の復習
 ←悪い 良い→
 授業への取り組み姿勢(あてはまるものに○) (1 2 3 ④)

(10月9日)
 ・何を学んだか
 朝鮮の植民地化
 ・どう学んだか 教科書を読んで話を聞いた
 ←悪い 良い→
 授業への取り組み姿勢(あてはまるものに○) (1 2 3 ④)

(10月15日)
 ・何を学んだか
 資本主義と寄生地主制
 ・どう学んだか どの頃に産業革命が起きたか、寄生地主制について聞いた
 ←悪い 良い→
 授業への取り組み姿勢(あてはまるものに○) (1 2 3 ④)

地歴公民 「何を学んだか」、「どう学んだか」を記録させ、学習内容や学習プロセスを蓄積させることで、行動の変容を促す手立てとした。

国語総合 授業振り返りプリント

月 日 ()

1年 () 組 () 番 氏名 ()

自己評価
 今日の授業の理解度は
 (5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1)

理解できた内容はどんなこと？

今日の自分の良かった点 (最低でも一つは書いてください。)

疑問点はないですか？

- (2) 課題
- ア 定期的に生徒のポートフォリオを点検していくことが想像以上の労力と時間がかかるため、継続的に活用するための方法を模索していく必要がある。(国語)
 - イ 教師側の準備の手間やポートフォリオの評価等の煩雑さから、ポートフォリオを「手軽に」使えるという段階にまでいたらなかった。ポートフォリオを当たり前のように授業に活用していくために、よりシンプルな書式の開発を行う必要がある。(地歴公民)
 - ウ 授業後のポートフォリオの自己評価は高く、授業時は理解しているが、理解が浅く定着していない結果となっている。理解を深め、知識として定着できる取組の工夫が今後の課題である。(数学)
 - エ 現在あるポートフォリオを定期的に活用しようとする、教員に負担がかかりすぎてしまうため、継続的に使うためには、より簡素化した上で、毎回の授業の中に組み入れる工夫をすることが求められる。(外国語)

5 「思考力、判断力、表現力等」を高める評価問題における工夫

観点別評価の導入に伴い、まず各教科で試行テスト（プレテスト）等の分析を行い、その傾向を踏まえた評価問題作成に取り組んだ。その後、評価問題に必ず「思考・判断・表現」の観点に基づく問題を出題することで、生徒に思考・判断・表現することの重要性を伝えるようにした。以下に、今年度、各教科が取り組んだ教科横断的な視点で作成した評価問題を示す。

外国語科

8 下の問いに答えなさい。(3)

Lesson3 の学習を終えたある日の家庭基礎の授業で、たまたま手作り弁当の長所(merit)と短所(demerit)についての話し合いをすることになった。司会者シノブさんの問いかけにナギサさんは弁当の長所を述べた。それに対し、あなた (You) は短所を述べることになった。「手作り弁当」について、**3つ以上の短所**を入れながら、あなたの意見を日本語で書きなさい。ナギサさんの意見を参考にしてもよい。
※箇条書きではなく、文章の形で書くこと。

Shinobu : What are the merits of homemade *bento*, Nagisa?

Nagisa : Well, I can put only my favorite foods in *bento*. When I want to eat a lot, I use a large lunch box, but when I don't want to eat so much, I can use a small one.

Shinobu : I see. You mean you can *adjust the size of the *bento*?

Nagisa : Right.

Shinobu : *Anything else?

Nagisa : I can save money if I make *bento* every day. Also, for people who have some *food allergies, *bento* are very safe.

Shinobu : You don't have to *spend a lot of money if you make *bento*?

Nagisa : Exactly.

Shinobu : Thank you, Nagisa. Now, it's your turn. **What do you think the demerits of *bento* are?**

You : _____

語注) adjust : 調整する Anything else? : 他にありますか? food allergies : 食物アレルギー spend : お金を使う

1年コミュニケーション英語 I

「家庭科」との教科横断型の授業を実施し、定期考査では「日本の弁当」についての英文を読み、手作り弁当のデメリットについて考えさせる問いを出題した。

設問8 次の英語の質問に答えよ。(2点)

Do you think that all people are treated equally today? And, why?

Yes → _____ . Because _____ .

No → _____ . Because _____ .

2年コミュニケーション英語 II

「世界史」との教科横断型の授業を実施し、定期考査では、現代の人権に対する意見を述べる設問を出題した。

理科

問. ある草原で10m×10mの区画を設定し、植物Aの分布について以下のような条件を設定し調査を行った。これについて以下の各問いに答えよ。

1. 区画内の植物A全ての個体数を数える。
2. 植物Aが生育する位置を区画内で座標として数値化する。ただし、地面から1mの高さで直径が5cmを越える植物Aだけに座標を与える。

このような条件で調査したところ、以下のような座標が得られた。

(2, 7) (3, 6) (3, 8) (8, 3) (4, 7) (7, 4) (8, 5) (9, 4)

(1) 植物Aの分布のしかたは、以下の(ア)～(ウ)のどれか。記号で答えよ。

(ア) ランダム分布 (イ) 集中分布 (ウ) 一様分布

(2) この区画における植物Aの個体群密度を求めよ。なお、直径が5cm以下の個体は12個体であった。

3年生物

座標を与えて植物の分布について考察させる思考問題

3年化学基礎(文系)

「家庭科」との教科横断型の問題。日常生活と結び付けさせることで、知識の定着を図った。

①ホットケーキミックスの外箱に表示されている原材料を見てみると、ベーキングパウダーと書いてあります。ホットケーキの生地がふわふわにふくらむのはなぜでしょう？

②発泡性入浴剤の袋の裏に書いてある成分をみると重曹(炭酸水素ナトリウム)と酸(コハク酸やフマル酸)が含まれています。次の文中の[]には適する化学式、()には適する語句を記入しなさい。

お風呂の入浴剤には、お湯に入れると発泡するものがある。この発泡のもととなる物質は、炭酸水素ナトリウム[ア]とフマル酸である。炭酸水素ナトリウムは、弱酸である[イ]と強塩基である[ウ]からなる塩である。フマル酸は炭酸よりも(エ)酸であり、お湯に溶かすと、これらの物質が反応して、気体である[オ]が発生する。したがって、このような入浴剤には、(カ)の遊離の原理が用いられていることがわかる。

③都市ガスの主成分はメタン CH_4 であり、プロパンガスの主成分はプロパン C_3H_8 である。都市ガス用のガス漏れ警報器はガスコンロよりも上部に、プロパンガス用の警報器は下部に設置するように決められている。理由を答えなさい。

④炭火で肉や魚などを焼くと、カセットコンロで焼いたときよりも表面がパリッと仕上がる。炭の成分は炭素C、カセットコンロのガスの成分はブタン C_4H_{10} である。炭の方がパリッと仕上がる理由を記せ。

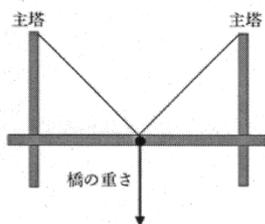
⑤一般家庭で用いられている都市ガスの主成分はメタン CH_4 である。次の各問いに答えよ。た

し、気体の体積は標準状態における値とする。排出される二酸化炭素は何kgか。ただし、 $1m^3$

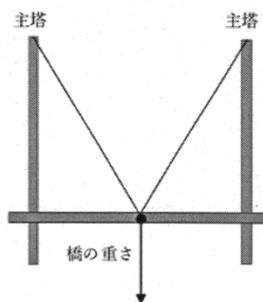
家庭がある。この家庭から排出される二酸化

太郎君は、総合的な探求の時間の課題研究で「つり橋」について調べています。調べているうちに、つり橋の主塔はなぜ高く設計するのかという疑問を持ちました。そして、調べてみると物理の授業で学習した「力のつりあい」で説明できることを知りました。課題研究の発表会では、下の二つ図(主塔が低い場合の図、主塔が高い場合の図)を用いて、つり橋の主塔を高く設計する理由をみんなに説明するつもりです。二つの図の中に説明に必要なこと(力の矢印や簡単な説明等)を書き込みなさい。また、発表原稿を簡潔に文章でまとめなさい。なお、図の矢印は橋の重さ(橋の重力)であり、主塔が低い場合でも高い場合でも同じ大きさであるとする。

【主塔が低い場合】



【主塔が高い場合】



2年物理基礎

課題研究を題材に「分析力」、「発信力」が、身に付いているか評価する問題

次の会話は、この文章を読んだ真吾くん、美由紀さん、賢紀先生の会話である。これを読んで、後の1・2の指示に
真吾くん…この文章は『古今和歌集仮名序』の冒頭部分だけれど、『古今和歌集』より古い歌集は何だっけ。

美由紀さん…そうね、日本で最も古い歌集は奈良時代末期に成立したといわれる（Ⅰ）だよ。今の元号「令和」
注目された歌集だよ。古典作品が現代の私たちの生活にも影響を与えていることを実感する出来事だ

真吾くん…そうだったね。今回学習した『古今和歌集』は平安時代初期に編まれたそうだけれど、当時は漢風（中国風）
だったんですよ。賢紀先生。

賢紀先生…おう、そうだ。そうした背景もあって、日本の文学も大事にしないといけないということから、
（Ⅱ）和歌集が編纂されたんだ。その名譽ある編者となったのは、紀友則、（Ⅲ）、凡河内

の四人。（Ⅳ）はこの古今和歌集が日本文学史上でも大きな意義をもつものになると考えて、こ
書いたと伝えられている。さらに、これと対になるものとして漢文で書かれた真名序も存在している

美由紀さん…なるほど、仮名序の作者は（Ⅴ）なんですよ。最初の一文では「やまと歌」がどうい
有名だから覚えておかないといけないですよ。ところで、最初の一文では「やまと歌」がどうい

比喩を使っているのは、すぐく工夫されているなど感じます。種から芽が出て成長し、やがて大きな木と
に例えているのは、すごく工夫されているなど感じます。種から芽が出て成長し、やがて大きな木と

賢紀先生…おお、いいな。良い気づきだ。（Ⅵ）は「和歌とは人の心情を様々な言葉で表現した（Ⅶ）であ
るんだよ。

美由紀さん…人間だけではなくて、あらゆる生き物が和歌を詠むと作者は言っているけれど、その代表として「花に鳴くうぐいす」

「水にすむかはづ」を挙げてますよね。「うぐいす」は春の鳥だけれど、「かはづ」はどの季節の生き物なん
真吾くん…調べると「かはづ」って春、夏、秋といろんな季節を表す季語になっているみたいだね。教科書の註

「かはづ」は「かえるの一種で、今の河鹿（カジカ）」を指していて、ヒヨロヒヨロヒヒヒという澄々
くんだって。文字にするとおもしろく美しく感じないけれど、山の鹿に対して、河の鹿と呼ばれたことか
れるようになったらしいよ。

美由紀さん…声や季節も対応させているんだね。やっぱり表現の仕方凝ってるね。ところでやまと歌が感動させるものってたく
さんあるんですよ。先生。

賢紀先生…うん、本文後半を見てみる。人である男女や武士はもとより、（Ⅷ）や（Ⅸ）という人間以外のものまで感動さ
せる力をやまと歌が持っていると言っているだろう。ここは作者がいかにやまと歌の持つ力に自信を持っていたかがわか
がえるところだな。

美由紀さん…なんだか私も和歌を詠みたくなってきたな。いい歌を詠んでみんなを感動させるぞ！

1 空欄I~Vを補うのに最も適当な語句を、後から一つずつ選び記号で答えよ。

- ア 抒情詩
 - イ 千載集
 - ウ 勅撰
 - エ 十六夜日記
 - オ 叙事詩
 - カ 土佐日記
 - キ 在原業平
 - ク 紀貫之
 - ケ 私撰
 - コ 万葉集
- 2 空欄a~eを補うものとして最も適当な語を解答欄の文字数に応じて、本文中から抜き出しそれぞれ答えよ。なお、同じ語を用いても良い。

近代科学とは、十七世紀にガリレオやデカルトたちによって開始され、
次いでニュートンをもつて確立された科学を指している。近代科学が現代
科学の基礎となっていることは言うまでもない。近代科学の自然観には、
中世までの自然観と比較して、いくつかの重要な特徴がある。
第一の特徴は、機械論的自然観である。中世までは自然の中には、ある
種の目的や意志が宿っていると考えられていたが、近代科学は、自然から
それら精神性を剥奪し、定められた法則どおりに動くだけの死せる機械と
見なすようになった。

第二に、原子論的な還元主義である。自然は全て微小な粒子とそれ以外
から課される自然法則からできており、それら原子と法則だけが自然の真
の姿であると考えられるようになった。

ここから第三の特徴として、物心二元論が生じてくる。二元論によれば、
身体器官によつて捉えられる③知覚の世界は、主観の世界である。自然に
本来、実在しているのは、色も味も臭いもない原子以下の微粒子だけであ
る。知覚において光が瞬間に到達するように見えたり、④地球が不動に思
えたりするのは、主観的に見られているからである。自然の感性的な性格
は、自然本来の内面的な性質ではなく、自然をそのように感受し認識する
主体の側にある。つまり、心あるいは脳が生み出した性質なのだ。

真に実在するのは⑤物理学が描きだす世界であり、そこからの物理的な
刺激作用は、脳内の推論、記憶、連合、類推などの働きによつて、秩序あ
る経験（知覚世界）へと構成される。つまり、知覚世界は心ないし脳の中
に生じた一種のイメージや表象にすぎない。物理学的世界は、人間的な意
味に欠けた無情の世界である。

問六 世界自然遺産でもある屋久島の縄文杉は、「物心二元論」によると、どのよう
に表現できるか。「知覚的」「物理学的」それぞれの面から簡潔にまとめよ。

3年古典
会話形式による課題文に生徒の知識を増やす内容を意図的に取り入れ、知識の定着を図った。

3年現代文
評論教材「環境問題と孤立した個人」の内容を「倫理」の授業でも扱ってもらうことにより、重層的な指導を行った。評価問題では、「物心二元論」について出題した。

数学

1

次の会話文を読んで、下記の問いに答えよ。

T先生：むかしむかし、曾呂利新左衛門（そろりしんざえもん）という人物がいました。あの豊臣秀吉に御伽衆（おとぎしゅう）として仕えたといわれています。

ある日、新左衛門は秀吉から、「何でも褒美（ほうび）のものを取らせよう。何がよいか。」という言葉に、「1日目は米1粒、2日目は2粒、3日目は4粒、次の日は8粒…と前の日の2倍の米粒を次の日にとるようにして51日間だけいただきたい」と言いました。

秀吉はせいぜい米俵1俵か2俵くらい（1俵は60kg）だと思い、にこにこしながら「たったそれだけでよいのか、さっそく家来に毎日運ばせよう」と承知しました。

Sくん：ちょっと、先生、なんでそんな話をいきなり始めたのですか。

T先生：ん？今日から学ぶ単元は何？

Sくん：指数関数です。

T先生：そうだね。

Sくん：そうだねって、言われても…。

T先生：では、続けるよ。ところが、秀吉は曾呂利新左衛門の希望をかなえることはできず、新左衛門に謝ってほうびを別のものに替えてもらったそうです。おしまい。

Sくん：……。おしまいって、それだけですか。

T先生：そう。この話どう思う。

Sくん：あまりおもしろくない話ですね。でも、どうして秀吉は新左衛門の希望をかなえられなかったのだろう。

T先生：そうだね。それがこのお話の肝心なところだよ。では、新左衛門の希望通りに米粒の個数を計算してみようか。

Sくん：はい。えっと、1日目1粒で次の日から2倍ずつしていくから、2日目2、3日目4、4日目8、5日目16、6日目32、……。先生。もう計算したくありません。

T先生：だろうね。実はこのまま2倍ずつしていくと31日目には1,073,741,824粒、51日目には1,125,899,906,842,620粒になります。……※

Sくん：ひゃ～、すごく大きい数ですね。でも大きすぎてピンときません。

T先生：だよ。ちなみに、お米1粒は、約0.02gです。ですから、お米1kgは、 $\boxed{7}$ 粒ぐらいになります。

Sくん：ということは……31日目はおよそ21,474kg、51日目は……およそ22,517,998,136kgか。

T先生：1日目からの累計を計算すると、31日目には約42トンで、51日目には約4500万トン

Sくん：すごい量すぎて、ますますわかりません。

T先生：農林水産省の平成25年の米の生産量の資料によれば、日本の米の総生産量は約860万トンだって。

Sくん：なるほど。新左衛門は51日になる前に現代の日本で収穫できる量以上の米を手に出来たことになるのか。

T先生：さすがに、秀吉も途中でとてつもない量であることが分かり、別のものにしてもらったということさ。

(問1) (7)に適する数値を下記から選び、記号①～④で答えよ。

- ① 500 ② 5,000 ③ 50,000 ④ 500,000

(問2) 1日目および3日目の米粒の数を a^n の形で表せ。

(問3) ※の31日目の値を a^n の形で表せ。

(問4) 1日にもらう米粒が1kgを超えるのは何日目か。ただし、必要があれば、 $\log_{10} 2 = 0.3010$ を用いてもよい。

2年数学Ⅱ

試行調査（プレテスト）を参考に作成した、会話文形式の評価問題。思考力や表現力を図った。

7

ボールを秒速20 mで真上に投げ上げたときの高さを y メートルとすると、 x 秒後の高さは $y = 20x - 5x^2$ になることが分かっている。このとき、次の問いに答えよ。ただし、投げる人の身長などを考えず、地面から、すなわち高さ0メートルから投げたと考える。(4点×2)

(1) このボールは地面から何メートルの高さまで上がるか。

1年数学Ⅰ

二次関数の内容を「物理基礎」の鉛直投射の内容とつないだ評価問題

地歴公民科

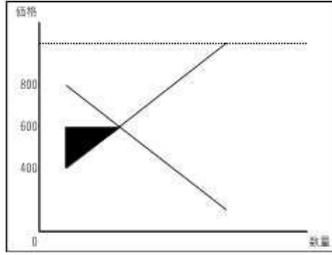
1 資料を読み、以下の(1)～(3)の問いに答えよ。

市場の参加者全体にとっての「望ましき」のことを経済学では「厚生」と呼びます。「厚生」を評価する基準はいくつかあります。その中で最も直観的な指標が「余剰」という概念です。「余剰」とはある経済活動によって人々がどれだけ得をしたかを金銭的な価値で評価したものです。

たとえばあなたが、800円までなら出してもいいと思っているマグカップを600円で購入したとします。このときあなたは、 $800円 - 600円 = 200円$ の得をしたと計算します。買う側(消費者)であるあなたが200円の得をしたので、経済学ではこれを200円の消費者余剰と呼びます。

一方、400円以上で売れば儲かるとおもっていたマグカップが600円で売られた場合、売る側(生産者)の儲けは、 $600円 - 400円 = 200円$ です。これを経済学では、200円の生産者余剰と呼びます。

生産者余剰の合計を需要曲線と供給曲線で表すと右図のグラフの黒く塗られた部分になります。黒く塗られた三角形の面積が、生産者余剰の合計となります。



資料

- (1) 表1は、サンマの価格、需要量、供給量を表したものである。表1をグラフで表せ。また、このグラフにおける消費者余剰に該当する部分を黒く塗りつぶせ。

表1

	供給量	需要量
50円	100	500
100円	200	400
150円	300	300
200円	400	200
250円	500	100

- (2) 図1のように、サンマの価格が、表1に示された均衡価格から100円に急落したとする。このことを、グラフで表すとしたらどのようなようになるか。

解答欄に問(1)の解答を再度示し、そこに示された需要曲線もしくは供給曲線のいずれかを動かして、サンマの価格が、問(1)の均衡価格から100円に急落したときの変化を表せ。

また、変化後の消費者余剰に該当する部分を黒く塗りつぶせ。



図1 南日本新聞(2008年9月13日)

- (3) 問(1)、問(2)で示した、消費者余剰の増加もしくは減少が何を表すものであるか、資料を参考にしながら説明せよ。その際、消費者余剰の具体的な数値を示すこと。

2年政治・経済

需要と供給のグラフを題材に数学と経済を融合させた教科横断型の問題

問4 下線部④に関連する右の絵の下の下線部について、リンカンの追悼演説の一節で、デモクラシーの本質を示した言葉であるが、和訳をせよ。

出典：『英文詳説世界史』山川出版

3年世界史B

「世界史」で出題された日本語訳の問題



LINCOLN DELIVERING THE GETTYSBURG ADDRESS

In this famous speech of November 19, 1863, Lincoln appealed for "the government of the people, by the people, for the people."

6 本研究の成果と課題のまとめ

(1) 成果

- ア ペア・グループ学習を取り入れた授業を増やすことで、自分の意見を表明することへの抵抗を減らし、他の意見を参考にして思考を深め、自分の意見を表現するという学習活動につなげさせることができた。
- イ 教え合いなど能動的な学習活動を意識的に取り入れたり、習得した知識が生かせる場面に気付かせたりすることで、授業中の生徒の学習活動が活発になるなどの効果が見られた。
- ウ 生徒の「思考力、判断力、表現力等」を育成するという視点をもって評価問題を作成することで、教師側の意識改善や問題作成能力の向上が図られた。
- エ ポートフォリオの活用により、学習の理解度を視覚化し振り返らせることで、学習に対する新たな目標を設定させ、主体的に学ぶ意欲を高めることができた。
- オ ポートフォリオを活用し、学習プロセスや学習内容を振り返らせる取組を継続することで、「学ぶ方法」や「まとめる方法」を工夫する生徒が増えてきた。その結果、主体的に学習に取り組む姿勢が身に付いてきた。
- カ ポートフォリオを活用することで、教科書をどのように読むかについての目的意識をもたせることができた。また、発表活動をするを単元の始めに伝えることで、教科書のどの表現が自分の発表に使えるか等、発信を念頭に置きながら学習に取り組ませることができた。
- キ 教科横断的な視点の授業実践と評価問題を提供することで、教科書の表層的な内容理解から一歩進んで、主体的に考えて取り組む姿勢が生徒に見られるようになった。また、生徒の既有概念を総合させるため、生徒の深い思考を促す上で効果があったと考えられる。
- ク 関連した学習内容のある単元や教科との連携を行うことで、個人や身近な範囲にとどまっていた視点から社会問題として問題を捉え、自分の立場や姿勢について考えようとする社会に向けた視点をもてるようになった。
- ケ 前回のテーマから継続して「思考力、判断力、表現力等の効果的な育成」に取り組み、カリマネ策定委員会にて本校生徒に身に付けさせたい「9つの力」を決定したことで、「育てたい生徒像」を職員間で共有することができた。その結果、学校教育目標（創造性豊かで実践力のある社会に有為な人材の育成）にアプローチできた。

(2) 課題

- ア アクティブ・ラーニングの視点を用いた授業を実践する際に、ペア・グループ学習自体が目的となってしまうことがあり、資質・能力を育成するための手段として用いる工夫が必要である。例えば、表現活動を行うにあたり、発表内容についての調べ学習や絵や図などをまとめることに多くの時間が割かれてしまうことが課題である。
- イ 従来の基礎知識を身に付けさせてから応用力を付けさせる指導から応用を見通しつつ基礎を学ばせる指導に転換する必要がある。
- ウ 協働的な学習や教師の発問がある場合は生徒相互で意見交換したり、思考を深めたりすることが可能であっても、授業で取り扱わない題材を使った評価問題ではその手立てがなく、課題解決が困難となる。出題の際に、読解のための手順や手掛かりを示すことで生徒が意欲的かつ効果的に問題に取り組めるような工夫が必要である。
- エ 教科横断的な視点の授業実践については、新型コロナウイルスの影響もあり、取組が不十分であった。継続して取り組み、来年度以降の研究に生かしていきたい。